

近畿圏における交通の目指すべき 方向性の基本的な視点について(案)

○自家用車から公共交通への利用転換だけでなく、人々が動きやすい環境をつくり、モビリティを高めることにより、外出機会の増加や交流の促進を図り、地域の活力を向上させるという視点が重要である。

○公共交通を社会的インフラとして位置づけ、地域の活力を向上させるために、地域から公共交通への支援を、地域への「投資」と考えるという視点が重要である。

○モード、地域、主体、施策分野を横断するという視点が重要である。(交通はそれぞれの特性に応じて適切に役割分担し、かつ、有機的かつ効率的に連携しなければならない。また、国、地方公共団体、交通関連事業者、交通施設管理者、住民その他の関係者が連携し、協働しなければならない。さらに、観光や福祉、教育等交通に関連する施策と相互に連携を図り、それぞれの分野が主体的に他の分野に働きかけることが重要である。)

○都市機能の高度化、観光立国への貢献だけでなく、地域公共交通の確保維持においても、新しいサービスの創造という視点が重要である。

○大規模な災害が発生した場合においても、交通の機能が維持され、当該災害からの避難のための移動が円滑に行われる強靱な交通を実現するという視点が重要である。

○交通が環境に与える影響に鑑み、交通による環境への負荷の低減を図り、低炭素社会実現に貢献するという視点が重要である。

○交通に対する基本的な需要を適切に充足するためには、いかに交通関連事業を健全に発展させ、公共交通サービスを確保、向上させていくかという視点が重要である。

○公共交通とその他の交通のバランスなど地域特性に応じた交通政策を適切に実施するためには、適切なエリア認識を持つことが不可欠である。

○交通政策を実効性のあるものとするためには、計画的に実施されることが重要であり、適切な計画が策定され、適切に実施されることが必要である。近畿圏内において計画を策定する際には、より適切な計画を策定するために、交通基本計画や本答申等を参考にすることが望ましい。

<近畿圏の鉄道ネットワーク、サービスのあり方の基本的な視点>

- 近畿圏の概成した鉄道ネットワークは、地域活性化、都市機能の向上、環境負荷の低減、観光立国への貢献といった多面的な役割を果たし、近畿圏の社会経済の成長を支えている。
- 今後も近畿圏が持続的に成長していくためには、鉄道ネットワーク、サービスの持続可能性の確保が不可欠であり、本格的な人口減少社会を迎えるなど鉄道を取り巻く環境が一層厳しくなるなか、概成した鉄道ネットワークの健全な維持が第一の課題となる。
- その課題を確実に克服した上で、近畿圏のより一層の成長を実現するため、鉄道ネットワーク、サービスの質の向上を図っていく必要がある。
- さらに、近畿圏の成長によって需要が創造され、鉄道ネットワークの健全な維持につながるという持続的な成長のサイクルを実現する必要がある。(「需要の確保・創造を重点に置いた成長モデル」)

(鉄道ネットワークの健全な維持のあり方の基本的な視点)

- 人口減少社会のなか、鉄道ネットワークの健全な維持のためには、関係者の積極的な連携による需要の確保・創造が不可欠である。
- また、公共交通全般に対して安全に対する信頼が揺らぐなか、公共交通機関の最も重要な使命として、安全を確実に確保する必要がある。安全性に加え、信頼性・正確性を確保することが最も重要な課題である。

(鉄道ネットワーク、サービスの質の向上のあり方の基本的な視点)

- 鉄道ネットワーク、サービスの質の向上は、近畿圏の成長のための課題を解消するという視点が不可欠である。
- また、鉄道ネットワーク、サービスの質の向上は、第一の課題である健全なネットワークの維持の実現に向けて、需要創造に繋がる新しい鉄道サービスの創造という視点が重要である。また、投資に見合う十分な需要創造に繋がらないものであっても、社会的なニーズに応え、近畿圏の一層の成長を実現するという観点から、効率性や持続可能性を考慮しつつ、関係者が積極的に連携して、サービスの高度化を図る必要がある。
- さらに、鉄道ネットワークが概成していることを踏まえ、鉄道ネットワーク、サービスの質の向上は、まず、ソフト・ハードの多様な施策を組み合わせ、既存の鉄道ネットワークを改良することによって実現を目指すべきである。その上で、既存の鉄道ネットワークの改良では対応が困難であり、近畿圏の成長に寄与することが具体的に明らかである場合は、鉄道ネットワークの拡充を検討すべきである。なお、鉄道ネットワークの拡充にあたっては、鉄道ネットワークの健全な維持への影響を考慮するとともに、人口が減少するなか、道路整備計画等と整合性についてより留意すべきである。

